

### Ⅲ 結果の概要

今回の調査結果の概要は次のようになる。なお、「増加」「減少」の記載については、前回の調査との比較、「増加傾向」「減少傾向」の記載については、5回の調査を通した経年変化を表している。また、有意差があるものについては、「(\*)」を付けている。

#### 1 児童・生徒編<生活様式と子どもたちの適応感>

##### (1) 家庭での生活

---

###### ①起床・就寝 (P. 12)

- ・小学生、中学生を比較すると、12時過ぎに寝る割合が、中学生になると大幅に増加している。
- ・小学生、中学生ともに、起床時刻が早くなっている傾向にある。(\*)

###### ②朝食・夕食 (P. 13～)

- ・「時間がない」という理由で朝食を食べない子どもが増加している。
- ・夕食は、小学生、中学生ともに、「ばらばらで食べる」が増加している。

###### ③手伝い (P. 15～)

- ・手伝いをする子は、小学生は9割半ばで、中学生は8割半ばである。
- ・小学生、中学生ともに、「食事の用意、後片付け」が増加傾向にある。(\*)

###### ④家庭学習 (P. 17)

- ・小学生では、「学校の宿題」が増加傾向にある。(\*)
- ・中学生は、「授業の予習・復習」が15年度から増加傾向にある。(\*)

###### ⑤家で注意されること (P. 18)

- ・小学生、中学生ともに、「身のまわりの片付け」「勉強のこと」の割合が高い。
- ・小学生、中学生ともに、「起床就寝の時間」が、前回より増加している。
- ・中学生は、「帰宅時間」が減少傾向にある。(\*)

###### ⑥家の人との会話 (P. 19)

- ・学校のでできごとを家の人に「話す」子どもは、小学生が9割半ば、中学生が9割弱である。
- ・中学生では、「話さない」が平成15年度以降、減少している。

###### ⑦家の人との相互理解 (P. 20)

- ・小学生、中学生ともに、「自分を理解してくれる」「自分の話を真剣に聞く」「家族を尊敬する」が、前回より増加している。

###### ⑧生活時間 (P. 21)

- ・平日の勉強時間について、小学生は30分～1時間、中学生は1～2時間が最も多くなっている。
- ・学校から帰った後の、平日の読書時間は、小学生、中学生ともに、「全くしない」が最も多くなっている。

## (2) 学校での生活

---

### ①教科の好き嫌い (P. 23～)

- ・上位のものは、小学生では体育・図画工作・家庭科である。中学生では保健体育・数学・社会である。
- ・平成20年度より、「好き」が増加傾向にある教科は、小学生は、社会・道徳・学級活動、中学生は社会・数学・英語である。<sup>(\*)</sup>
- ・小学生に比べ、中学生の方が、「どちらともいえない」に多く回答している。

### ②行事の楽しさ (P. 25～)

- ・中学生の「遠足」は楽しいが増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>
- ・小学生、中学生ともに9割程度の子どもが「宿泊学習」は楽しいと回答している。
- ・5割以上の子どもが「学芸会」「合唱コンクール」は楽しいと回答している。

### ③部活動への参加状況と要望 (中学生のみ) (P. 26～)

- ・部活動加入率は8割以上で、途中で退部した生徒は1割弱であった。
- ・部活動に加入したことがない生徒は、前回の調査の4.2%から7.7%に増加した。
- ・退部理由としては、「勉強が遅れるから」が増加している。
- ・積極的に参加している生徒は、調査開始時から増加し続けている。
- ・土日の活動については、今回の調査では減少した。<sup>(\*)</sup>
- ・部活動に対して「特に不満は感じていない」と回答する生徒が最も多かった。

### ④教師への要望 (P. 30～)

- ・教師への要望については、小学生、中学生ともに、「勉強をおもしろく教える」と回答した割合が最も高い。
- ・やめてほしいことについては、小学生では「宿題を多く出す」、中学生では「えこひいきをする」をするという回答が多かった。

## (3) 地域での生活

---

### ①生活体験 (P. 32～)

- ・小学生、中学生ともに、「牛や馬にさわる」、が前回の調査より増加した。
- ・小学生、中学生ともに、「本気のけんかをする」割合が減少した。<sup>(\*)</sup>

### ②地域との関わり (P. 34)

- ・小学生、中学生ともに、8割以上が、「近所の人とあいさつする」と回答している。
- ・近所の人から注意されることが「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、今回の調査が最も低かった。

### ③地域での活動 (P. 35)

- ・小学生、中学生ともに、「近所の祭りや盆踊りなどへの参加」が最も多かった。
- ・中学生よりも、小学生の方が地域での活動の参加率は高い。

### ④地域での施設利用 (P. 36)

- ・小学生、中学生ともに、「公園」を多く利用している。
- ・平成15年度の調査より、小学生、中学生ともに、「スポーツ施設」の利用が増加している。

#### ⑤地域への愛着（P. 37）

- ・小学生、中学生ともに、「日本」「今住んでいるところ」「綾瀬市」の順に、「好き」という回答が多かった。

### （4）友だちとの関わりなど

---

#### ①遊びの人数（P. 38）

- ・小学生・中学生ともに、前回の調査より、「1～2人」が増加し、「5人以上」が減少した。
- ・中学生は、「自分一人で遊ぶ」割合が、小学生よりも高い。

#### ②帰宅後の活動内容（P. 39～）

- ・小学生、中学生ともに、「ゲーム機やスマホ・パソコンなどでゲームをする」「友だちとスマホ等でメールやラインをする」は、増加している。
- ・今回からの調査項目である「You Tube などの動画を見る」は、小学生が6割強、中学生が8割弱で、中学生においては、最も高い割合であった。

#### ③仲の良い友だち（P. 41～）

- ・小学生、中学生ともに、「6人以上いる」が7割を超えている。
- ・小学生では、「学校が終わった後、一緒に遊ぶ」が最も多く、中学生では、「学校が休みの日に一緒に遊ぶ」が最も多かった。
- ・小学生では、「悩みを相談し合う」、「将来のことについて話し合う」が増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>

#### ④学習塾（P. 43～）

- ・通塾では、小学生は3割強となり増加、中学生は5割半ば、調査を開始してから、最も高い割合となった。
- ・塾に行く日数としては、小学生、中学生ともに、「週に2、3回」が最も多い。
- ・帰宅時刻については、小学生は8時前、中学生は9時過ぎの割合が高い。

### （5）価値観と将来展望

---

#### ①福祉に関する価値観（P. 47）

- ・「親の面倒は自分で見る」と回答した、小学生は9割弱、中学生は8割強であった。
- ・小学生、中学生ともに、「目の不自由な人に声をかける」は、平成20年度の調査より増加している。

#### ②環境問題に対する意識（P. 48～）

- ・中学生は、環境問題に対して広く関心を持っている
- ・小学生・中学生ともに、「ゴミはゴミ箱に捨てる」、「使っていない電機は消す」が増加傾向<sup>(\*)</sup>にある。

#### ③染髪・ピアス等への価値観（P. 50～）

- ・小学生、中学生ともに、「髪を染める」は、「大人になってからしていい（したいと思う）」割合が、増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>
- ・小学生・中学生ともに、「ピアスをする」は、「そうしてはいけない（したいと思わない）」割合が前回の調査より高くなっている。
- ・「スマートフォン・携帯電話を持つ」については、小学生では「小学校高学年」「中学生」の項目に回答が多く、中学生では「中学生になったら」が最も多い。
- ・小学生・中学生ともに「中学校になったら」が前回の調査より、増加した。

#### ④将来について（P. 52～）

- ・小学生、中学生ともに、「家庭や家族を大切にする人」「努力してまじめに生きようとする人」「社会や人々のためにつくそうとする人」の項目が増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>
- ・職業選択においては、小学生、中学生ともに、「自分のやりたいことと一致していると回答している割合が最も高かった。

### (6) ストレスと学校への適応

---

#### ①いじめ（P. 54～）

- ・小学生、中学生ともに、「いじめをした」「いじめの現場を見た」が前回の調査より減少した。
- ・「いじめを止めるために何かした」と回答した、小学生は6割強、中学生は4割半ばである。

#### ②ストレス（P. 56）

- ・小学生、中学生ともに、「朝、なかなか起きられない」と回答した割合が高かった。
- ・小学生においては、「イライラする」「夜眠れない」「疲れやすい」「おなかが痛くなる」が、前回の調査より増加した。
- ・中学生は、前回の調査より、どの項目も減少した。

#### ③学校への適応（P. 57～）

- ・小学生、中学生ともに、5割程度が、学校へ行きたくないと思うことが「よくある・ときどきある」と回答している。
- ・学校へ行きたくない理由について、小学生では、「体の調子が悪いとき」「なんとなく不安なとき」で、中学生では、「行くのがめんどうなとき」「体の調子が悪いとき」が上位となっている。
- ・学校へ行きたくないとき、家の人にしてほしいかについて、小学生、中学生ともに、「何もしないでそっとしておいてほしい」が最も多かった。

#### ④給食を残す理由（P. 59）

- ・小学生、中学生ともに、「ほとんど残さない」が最も高い割合だった。
- ・残す理由については「きれいな物があるから」が前回より増加した。

### (7) 携帯電話・スマートフォン（P. 60～）

---

- ・所持については、小学生、中学生ともに、増加傾向にある。中学生では、9割近くが所持している。<sup>(\*)</sup>
- ・所持していない小学生、中学生のうち、「必要である」と回答した児童・生徒は、増加している。
- ・よく使う機能は、小学生、中学生ともに、「メール・LINE」が最も多かった。
- ・家庭でのルールを、「決めている」と回答した割合は、5割程度であった。
- ・操作時間については、小学生は30分以内の割合が高いが、中学生では、2時間30分以上の割合が高い。
- ・メール等で悪口を書かれたりいやがらせをされたりしたことがあるかの間には、小学生、中学生ともに、8割以上が「ない」と回答した。

## 2 保護者編＜子どもに関する教育の考え方と学校教育への期待＞

### (1) 家庭における教育

---

#### ①子どもに対する理解 (P. 64)

- ・中学生の保護者より、小学生の保護者の方が、子どもの悩みを知っている割合が高い。
- ・中学生の保護者は、「今悩んでいること」、「今一番興味を持っていること」を「よく知っている・知っている」と回答した割合は、増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>

#### ②子どもとの会話の内容 (P. 65～)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、子どもとよく話す割合は9割を超えている。内容は、「学校のこと」、「友だちのこと」が多くなっている。
- ・小学生では、「体や健康のこと」、中学生では、「テレビ番組のこと」が、減少傾向にある。<sup>(\*)</sup>

#### ③しつけの様子 (P. 67)

- ・「毎日朝食をとらせる」、「近所の人へのあいさつをさせる」は、小学生、中学生の保護者ともに、9割を超えている。

#### ④土曜・日曜日の子どもの過ごし方 (P. 68～)

- ・土曜日の過ごし方について、小学生は「親子で過ごす」、中学生は「部活動をする」が最も多かった。日曜日の過ごし方については、小学生は、「親子で過ごす」、中学生は、「家でのおんびり過ごす」が最も多かった。
- ・小学生、中学生ともに、「学習塾・おけいこ・スポーツクラブなどへ行く」が増加している。

#### ⑤進路に対する考え方 (P. 70)

- ・進学させる学校について、小学生、中学生の保護者ともに、「公立学校に進学」が8割強である。
- ・中学生の保護者では、「公立学校」への進学希望が、前回の調査より減少した。

#### ⑥進学に対する考え方 (P. 71)

- ・高等学校への進学について、小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの学力にあった学校」が最も高く、約7割であった。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「自由にのびのびできる学校」への進学希望が、前回の調査より増加した。

#### ⑦学習塾に対する考え方 (P. 72～)

- ・中学生の保護者が、子どもを学習塾に通わせている割合は、平成15年度の調査以降、増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>
- ・中学生の保護者が、学習塾に通わせる理由としては、「受験に役立つから」が年々増加し、「子どもが希望するから」が年々減少している。<sup>(\*)</sup>

#### ⑧家庭教育で重視すること (P. 74)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの健康に気を配ること」、「親子で対話すること」が9割を超える。
- ・小学生の保護者は、「家庭学習を充実させること」が、増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>

## (2) 学校教育への満足と要望・期待

---

### ①学校教育に対する満足度 (P. 75～)

- ・すべての項目で「とても満足」と「満足」を合わせた割合が、増加した。
- ・すべての項目で、小学生、中学生の保護者とも、「とても満足」の回答が少なく、「どちらでもない」の回答が多い。

### ②学校への期待 (P. 77)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「心の豊かさを育てる教育」を学校に期待している割合が最も高い。
- ・小学生、中学生の保護者ともに「進学に役立つ学力のつく教育」を望む割合が増加傾向にある。<sup>(\*)</sup>

### ③教育の分担 (P. 78～)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、おもに家庭で身につけるのがよいと回答されたのは、「基本的な生活習慣」で、9割を超えている。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、おもに学校で身につけるのがよいと回答されたのは、「基礎的な学力」、「集団生活のルール」で、9割を超えている。

### ④進路指導に対する要望 (P. 81)

- ・進路指導の要望としては、小学生、中学生の保護者ともに、7割以上が「子どもの学力に応じた指導」を望んでいる。
- ・中学生の保護者では、「子どもの話をゆっくり聞くこと」よりも、「合格の難易度などの詳しい情報の提供」の割合が高かった。

### ⑤部活動に対する期待 (P. 82)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「集団生活の経験ができる」ことを、最も期待している。

## (3) 地域における活動と愛着

---

### ①地域との関わり (P. 83～)

- ・「祭りへの参加」と「清掃や環境保護などの活動」「近所の子どもの遊び相手」が上位3項目であった。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、よそのお子さんを注意したりしかったりすることが、「時々ある」が減少しており、「よくある」が増加している。しかし、「よくある」の割合は、2割に満たない。

### ②地域への愛着 (P. 85)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「今住んでいる地域が好き」は、平成15年度の調査より前回の調査までは増加していたが、今回の調査では減少した。
- ・「綾瀬について自慢できることがある」の割合は、小学生、中学生の保護者ともに、前回の調査より高くなっている。

### ③子どもの地域活動への参加状況（P. 86～）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子どもを地域の活動へ参加させている」が、平成20年度の調査より、減少している。
- ・どのような活動に参加しているかは、小学生、中学生ともに「スポーツ活動」が多い。

## （4）教育に対する価値観と悩み

---

### ①教育問題に対する考え方（P. 89～）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ」と回答した割合が最も高く7割を超えている。
- ・「学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ」は、平成10年度の調査から、減少した。
- ・「よい学校に入るためには学習塾へ行かせるのは当然だ」は増加傾向にある。(\*)

### ②公教育に関する話題（P. 90～）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「学校での性教育」の必要性を感じている割合が最も高い。
- ・「小学校からのキャリア教育」は、割合は低いですが、小学生、中学生の保護者ともに、増加傾向にある。(\*)

### ③子どもの教育に関する考え方と悩み（P. 91～）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子ども中心の毎日を送っている」「塾や習いごとに多少無理をしても、お金をかける」が増加している。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」について、「してはいけない」「大人になってから」が減少傾向にある。(\*)
- ・携帯電話・スマートフォンについては、小学生、中学生の保護者ともに、「持ってもいい」時期は「中学生から」の割合が最も高い。

### ④子育ての悩みや実感（P. 95～）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子どもについて悩みがある」割合は、平成25年までの調査までは増加していたが、今回の調査では減少した。
- ・悩みの内容については、小学生の保護者では、「性格や行動」が、中学生の保護者では「学習について」が、最も多い。
- ・しついで困ることについては、小学生、中学生の保護者ともに、「しついても効果があがらない」と回答している割合が最も高い。
- ・将来どんな人になってほしいかについては、小学生、中学生の保護者ともに、最も多いのが「思いやりや優しさのある人」、次いで「自分の考えをしっかりとって行動する人」「人に迷惑をかけない人」の順になっている。

## （5）携帯電話・スマートフォン（P. 101～）

---

- ・中学生は、スマートフォンや携帯電話を所持しない児童・生徒の割合が低い。
- ・持たせない理由としては、中学生の保護者では、「勉強がおろそかになる」が、増加傾向にある。(\*)
- ・家庭でルールを決めているかについては、小学生の保護者は7割強、中学生の保護者は7割弱であった。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「フィルタリング・サービスを知っている」割合は9割程度で、増加傾向にある。(\*)
- ・「フィルタリング・サービスを利用している」割合は、小学生、中学生の保護者ともに、前回の調査より減少した。